

倶 多 楽

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

○火山活動評価

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況（2021年7月～2022年6月）

2021年7月以降の発表履歴	現在の警報・予報（噴火警戒レベル、キーワード）
変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）

○2021年7月～2022年6月の活動概況

▪ 噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図2～5）

監視カメラによる観測では、日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

2022年1月18日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、地獄谷や大湯沼などの状況や地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

▪ 地震及び微動の発生状況（図1-④～⑥、図6、図8）

2022年5月に日和山の西～北西側を震源とする地震が一時的に増加しましたが、日和山、大湯沼及び地獄谷を含む火口想定域¹⁾の地震は少ない状態が続いており、地震活動は低調に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

▪ 地殻変動の状況（図7）

GNSS 連続観測では、2017年頃から継続している基線長の変化は2021年秋以降鈍化しています。

1) 倶多楽火山防災マップ（登別市、2014）で示されている、噴火が発生する可能性のある場所として想定した、日和山周辺から地獄谷周辺にかけての約1800m×約600mの領域を指しています（図8参照）。

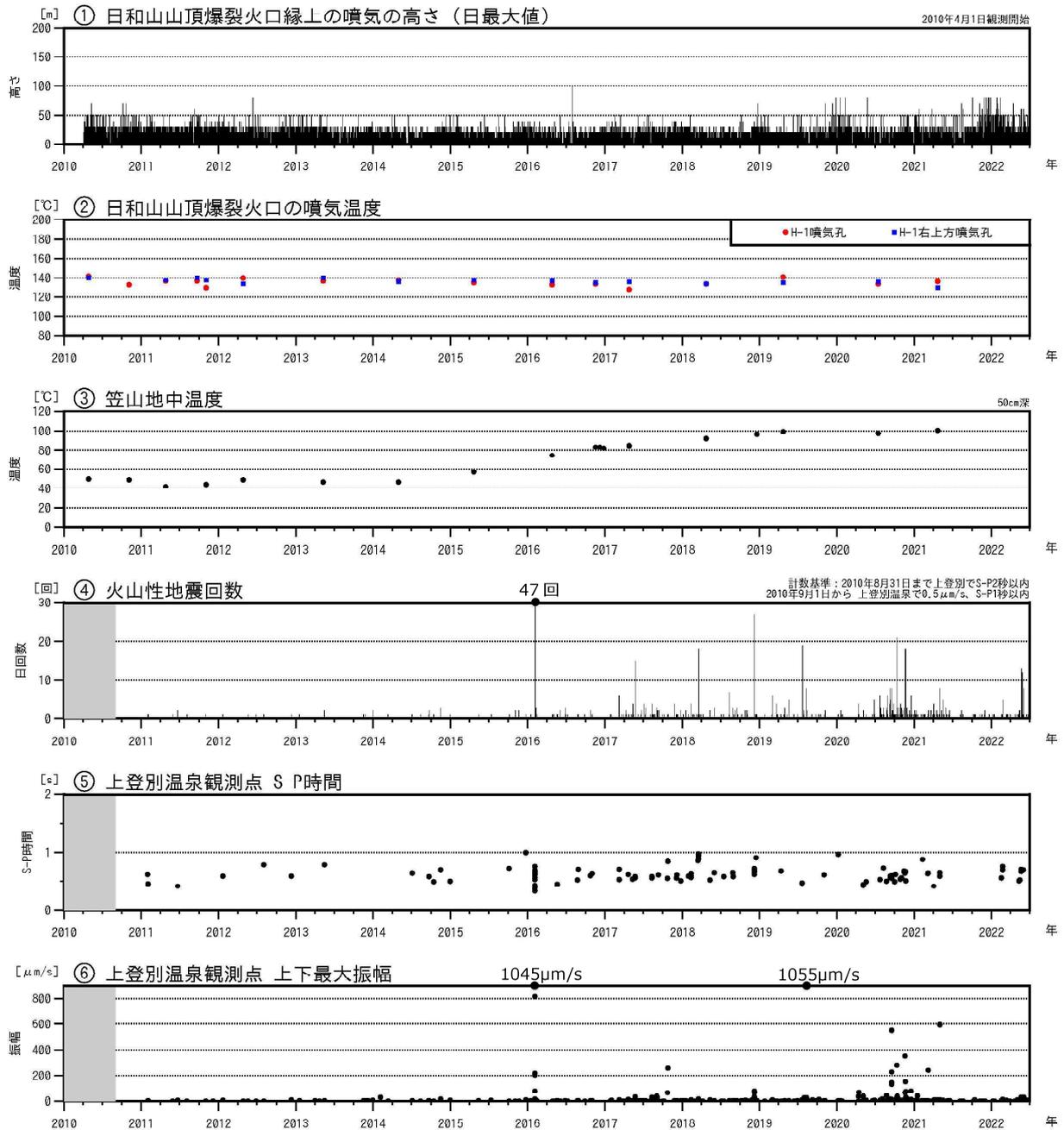


図1 倶多楽 火山活動経過図（2010年1月～2022年6月）
④～⑥の灰色の期間は機器障害による欠測を示します。



図2 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
(414m山監視カメラによる)

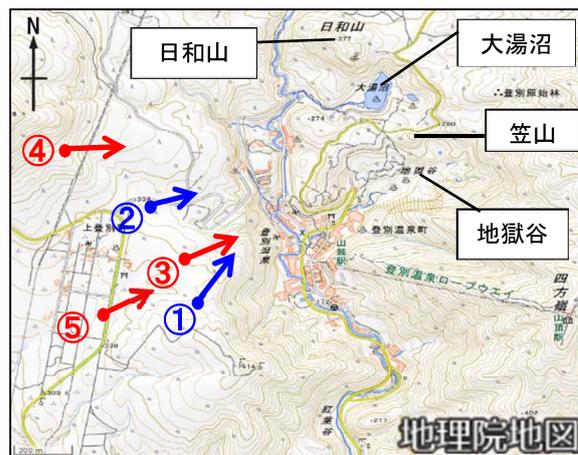


図3 倶多楽 赤外熱映像及び写真の撮影位置（矢印始点）と方向（矢印）
青色は図4、赤色は図5に対応

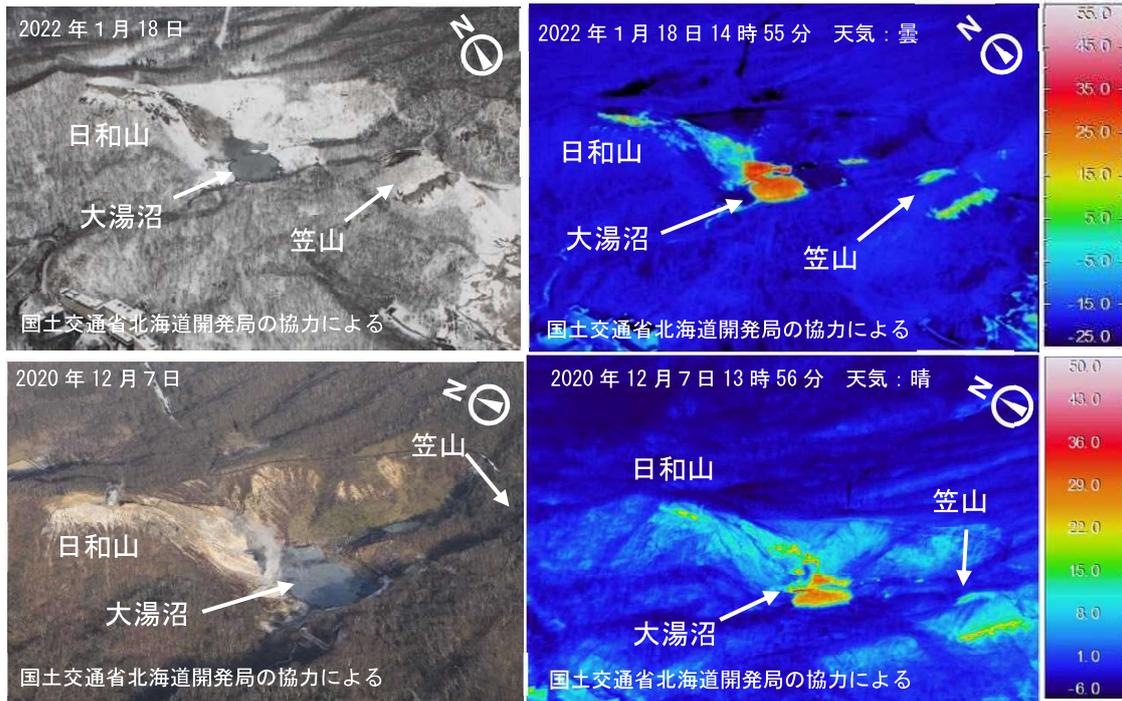


図4 倶多楽 赤外熱映像装置による日和山・大湯沼・笠山周辺の地表面温度分布
 上：南西側上空（図3の①）から撮影
 下：西側上空（図3の②）から撮影
 ・前回（2020年12月）の観測と比べて、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

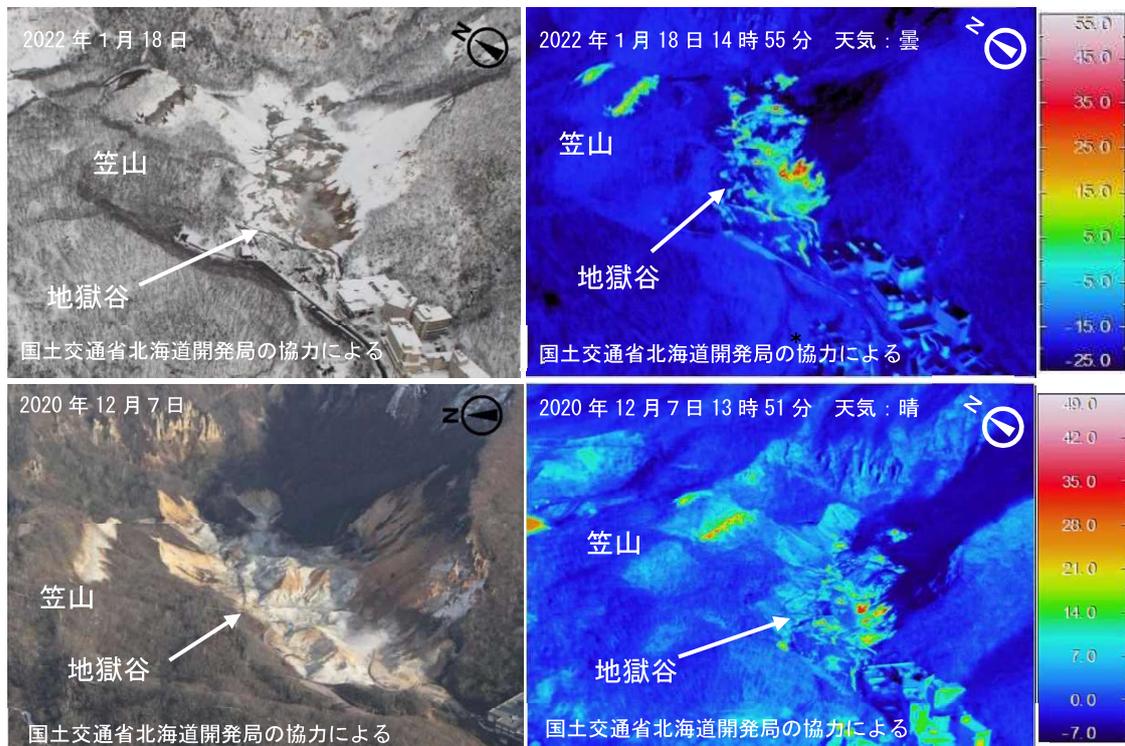


図5 倶多楽 赤外熱映像装置による地獄谷の地表面温度分布
 上：南西側上空（図3の③）から撮影
 左下：南西側上空（図3の④）から撮影
 右下：西側上空（図3の⑤）から撮影
 ・前回（2020年12月）の観測と比べて、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。